スイス日本語福音キリスト教会

JEGニュースレター128号

www.jegch.jimdo.com　２０１２年８月３０日発行

小さな証

津波で流された１５名のうち一人生き残った遠藤さんがみたものは、、。菊地神学生の証言。

伝道コンサート

オルテンの今村泰典兄姉宅のホーム伝道コンサートは、豊かに祝福されました。

家庭集会

サンクトガーレンでは、伝道コンサートの翌日に坂野慧吉牧師をお迎えして家庭集会を持ちました。

第29回 ヨーロッパ・キリスト者の集い

主にある家族に注がれた恵みと祝福をお分ち頂くため証集として添付いたしました。

小さな祈り

わたしたちの、
積み上げられた経験と知識を
主のビジョンだと「自分で」
信じていること、それらを脇に
やり、あのペテロのように
主のおことばどおりに
できる従順をわたし
たちにも与えてください。

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々があなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。　マタイ　５：１６

第２９回
ヨーロッパ・キリスト者の集い
オランダ　エルスペート

今年の夏も、ヨーロッパから、日本から、中東から、米国から、イエス様を頭とする神さまの家族２３８名が、８月１日から５日まで、オランダのみどり深い地、エルスペートに集められ、主は集いを最後まで導き、大いなる祝福を与えられました。

ちいさな証

寄磯浜のリバイバル

菊地祥彦
宮城県利府キリスト教会会員／オアシスライフ・ケア　スタッフ

私が支援活動の中で出会った遠藤さんという1人の男性について紹介します。遠藤さんは、3.11の大津波によって壊滅的な被害を受けた宮城県・石巻市の漁業集落「寄磯浜(よりいそはま)」というところに住んでいます。彼は去年の3月11日、壮絶な被災地体験をするのですが、ある日心の中に溜めておいたその体験を、涙ながらに私にシェアしてくれました。

彼のお話を伺いながら、私の心は震え、目に涙が溢れてきました。遠藤さんは津波に流されましたが、奇跡的に一命を取り留めました。あの日、寄磯浜では遠藤さんを含め15名の人々が津波で流されましたが、その中で生き残ったのは遠藤さんだけでした。

津波から奇跡的に生還した遠藤さんは、その後、奇跡的に「生かされた命」を地域の復興のため、周りの人々を助けるために使い始めました。日本全国を飛び回り、企業や救援団体に、壊滅した寄磯浜への支援をお願いして回ったのです。遠藤さんの働きのおかげで、多くのボランティアがこの漁村の支援にやってきました。

しかし、遠藤さんは満足に食事もせず、元々細かった身体はみるみる痩せていきました。私はそんな彼の姿を見て「なぜそこまで地域のため、また周りの人々のために頑張れるんですか?」と聞きました。そしたら、彼はこう答えました。「私はあの大津波から奇跡的に生き残りました。私は自分の命が神様によって生かされたと信じています。この生かされた命を、自分のためじゃなくて、地域のため、また周りの人たちのために使い たいんです」。

寄磯浜には、教会がなく、クリスチャンも1人もいません。もちろん、遠藤さんもノンクリスチャンです。しかし、遠藤さんは、震災後霊的な感化を強く受けていました。遠藤さんの言う通り、私たちの命は(聖書の)神様によって生かされています。私たちはそれを忘れ易い存在ですが、“生かされていることの恵み”を本当の意味で知る時に、人を生かすために”いのち”を使うことができるんだと遠藤さんから学びました。

この漁村には教会がありません。しかし、震災後、神様の霊的な恵みがこの地域に力強く注がれています。私たちを含め、国際的なキリスト教系救援団体「サマリタンズパース」など4つ以上のキリスト教支援団体が寄磯浜に関わっています。それまで福音が全く届いていなかっ地域に、何百人というクリスチャン・ボランティアが足を踏み入れ、支援活動を行っています。

被災地の小さな村で、ここまで神様の特別な祝福を受け、霊的に満ちあふれている地域があるでしょうか。私たちはある確信をもって、現在も寄磯浜を支援しています。それは、必ず何もなくなったこの地に建物や漁業が再建されること、そして霊的なリバイバルが起こることです。

菊地祥彦神学生は、サッカーの監督になるために独フライブルグ留学の２年間、スイス教会の礼拝と家庭集会に、忠実に通われる中で救われました。帰国し、神学の勉強を始めて間もなく、東日本大震災が故郷を襲い、身を賭して支援にたちあがりました。ヨーロッパで救われたのは、”この時のため”であったと証しされています。スイスJEGでは菊地神学生を祈りと献金をもって支援しています。

ビデオ・東北からのメッセージ（１４分）において、オアシスライフ・ケアの活動を、利府教会の松田牧人牧師ならびに　菊地祥彦神学生が現場に立って説明してくれます。

www.youtube.com/watch?v=l0h0MA3-bOo

CGN-TVで、この8月から新しく始まった「WEEKLY JAPAN」という被災地の今を伝える番組があります。初回と2回目の放送で、オアシスライフ・ケアの活動およびオアシスライフケアが支援する海友支援隊が取り上げられました。http://japan.cgntv.net/newsub.asp?pid=2708

１、オルテンの今村泰典兄姉宅にて７月２８日（土）１４時から開かれた伝道コンサートには、スイスを再訪された浦和福音自由教会坂野慧吉牧師を迎え、神と歩む人生の物語”嵐の中の平安”をテーマにメッセ–ジを語っていただきました。この日、会場となった今村家には演奏者を含め１７名の参加者がつめかけ大変祝福されました。

このホーム伝道コンサートでは、地中海ソプラノの工藤篤子姉、内村まり子姉（チェンバロ）、今村泰典兄（テオルボ）詩門君（ヴァイオリン）が、数々の名曲を演奏されて、参加者は流れる美しいメロディーのなかに、主の慈しみと恵みに浸る機会が与えられました。その後、オランダでのキリスト者の集いでご奉仕された坂野牧師より、帰国のご挨拶が届いています。坂野牧師による数々のスイス教会での尊いご奉仕を心より感謝します。

スイス教会の兄弟姉妹へ

私は八月十日、日本に帰ってきました。

この度は、スイス教会の皆様に家庭集会とオランダでお会い出来て、感謝致します。スイスの皆様が、福音を伝えることについて、とても熱心に祈って、求道者の人々を導いておられることを知り、とても嬉しく思いました。

また、スイス教会の兄姉が様々な形で、ニュースを発信しておられるので、感謝致しております。これからも、スイス教会のためにお祈りしております。　　坂野慧吉

２、伝道コンサートの翌日、７月２９日、サンクトガーレンに坂野慧吉牧師をお迎えして、クスター節子宅にて家庭集会を持ちました。“食べる教会”（クンツ師命名）に相応しく、心をこめ料理された様々なお惣菜が並ぶ食卓を囲み、参加者１０名が昼食を楽しみました。

坂野先生はルカ福音書２４章１３節から３５節までを、ドイツやチューリヒからの求道者を含む参加者に明解にお話し下さり、その後、活発な意見交換や良き交わりが持たれました。K和子さんが、その日の感想をお書き下さいました。なお、坂野先生の家庭集会の楽しい雰囲気がそのまま伝わるお話は、次のURLからダウンロードしてお聴き頂けます。http://firestorage.jp/download/ed379f97399497a38671670b0d4381f16d7f81cb

坂野先生は熟練教師で、今日のお話は、よくよく考えると重い内容で深みも深淵のごとくですが、私は悩むことなく、おつむでの消化もよくふんわりと先生の言葉を受け取っていました。先生とともにみなさんとの共有した時間は、醍醐味というか貴重でいい思い出としていつまでも心に残るものです。まだまだ未熟な私のようなものでもいつかは救われるような気にさせられました。今日の集会は、安堵を覚えて優しく包まれるような雰囲気で神様を覚えたので、流石坂野先生と敬った次第でした。今後もSt.Gallenの家庭集会に馳せ参じたいと心を躍らせつつ、これからもよろしくお願いします。

K和子

３、８月１日から５日までオランダで開催されたヨーロッパ・キリスト者の集いに、スイスJEGからは例年より少ない８名が参加して、その溢れるばかりの祝福と恵みに預かる幸いを得ました。スイス教会からは、今村兄姉が賛美チームにて、また、松林兄がビデオ記録並びに証／感想集編集の奉仕をさせていただきました。

集いのビデオ記録は下のURLをクリックしてご覧頂けます。

www.youtube.com/watch?v=18OYt9DOqzM

また、スナップ写真は、次のURLでご覧頂けます。

www.facebook.com/pages/ヨーロッパキリスト者の集い/158936920851831

８月２６日　礼拝／愛餐会のスナップ

４、６０年に渡って主のみことばを忠実に放送してきたFEBC(Far East Broadcasting Company)が、今年日本語放送開始６０年を迎えます。この番組は主日礼拝ほか聖書講解、賛美、祈り、インタビューなど、カトリック界を含め教派を越えた出演者によって、毎日７５分、一週間に深い内容の２０以上の番組を提供しています。このたびFEBCから番組ダイジェストCD“もう泣かないでいい”が３枚贈られましたので、受付にお尋ね下さい。このFEBCはインターネットでもお聴き頂けます。

キリスト教放送局日本FEBC

5、草創期のヨーロッパの日本語集会や教会に深い霊的な影響を及ぼし、ヨーロッパ・キリスト者の集いの創立にも大きく寄与した信徒伝道者・阿部哲兄の炎のような人生にスポットをあてた伝記が、百万人の福音などへの執筆で知られるフリーライター野口和子姉によって書かれました。”この愛に捉えられて”が一冊スイス教会に贈られましたので、お読みになりたい方は受付にお尋ねください。

6、第３０回となる２０１３年ヨーロッパ・キリスト者の集いは、７月３１日から８月４日まで、パリ郊外フォンテーヌブローで開催されます。その第一信が届いていますので、添付いたします。また、集いの最終日に上映されたプレゼンテーションもご覧下さい。www.youtube.com/watch?v=_a_TAAXGlrc

７、オーニンガー宣教師およびラシェンコ・ベラ宣教師からのRundbrief 、工藤篤子メールマガジン１８７号(tsudoi2012）、吉村美穂NL６４号、井野葉由美メルマガ90号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信が届いています。読まれたい方、定期的に受け取られたい兄姉は松林までお知らせください。